

くすの木タイム学習指導案

令和4年5月31日（火） 第3校時 第3学年3組（5年1組教室） 指導者 内田 圭祐

【単 元】オープン！わくわく草木染め工房

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	・草木染めやそれに関わる人々の特徴やそれらを得るのに必要な技能	・草木染めやそれに関わる人々の特徴などを関連付けながら課題を見いだし、関わり方を導き実践する力	・草木染めやそれに関わる人々と関わることへの思いや願いを高めながら、自ら探究する態度
子どもの実態	・生活科において、自分の思いや願いの実現に向けて、ペットボトルキャップやゴムなどの身近なものの特徴を得ている。	・生活科において、自分の思いや願いの実現に向けて、ペットボトルキャップやゴムなどの身近なものを使って遊ぶものを作ったり、遊び方を工夫したりしながら、試行錯誤している。	・自分の興味・関心を中心に考えた行動が多く、他者や地域のために行動していきたいという意識は少ない。
価値	・「草木染め」は、植物を原料とした染色技法のことである。群馬県は、絹産業が有名であり、その絹を染色する草木染めが地域の伝統的な産業として存在していた。草木染めは、植物を時間をかけて煮出し、そこから抽出した染液で繊維を染めるものであり、色合いは、植物の種類や季節によって異なるものであるが、総じて見る人に優しい印象をもたせるものとなる。しかし、現在は、草木染めではなく、化学染料で染めたものが中心となっている。化学染料は、安価ではっきりとした色で染めることができ、大量生産・大量消費の今の時代に合ったものである。しかし、均一の商品が広く使われるようになったために、色合いに対して、こだわりをもつ人が少なくなってきたという現状がある。そのような中で、草木染めに魅力を感じている専門家の思いに触れながら追究していくことは、子どもたちにとって、これまで何気なく手に取ってきた身の回りのものに目を向けることとなり、草木染めのよさを感じ、広めようとする思いをもつことができる。そのような学習の中で、一つのものを大事に使うことや一つのものを多様な角度から見ることで、そのよさに気付けることが分かり、物を大切に生活していこうとする自己の生き方を見つめ、広げていく。 ・草木染めをすることについて、専門家との関わりや試しの体験、魅力を発信する草木染め体験会の運営、他のグループの友達からの意見を基にすることで、草木染めをすることについて多様な角度から草木染めやそれに関わる人々の特徴を得ることができる。	・植物や生地の違い、染め方によって、色の出方が多様であったり、草木染めに関わる専門家に繰り返し相談できたりすることにより、自分たちが作るものについて、何度も試行錯誤することができ、よりよい関わり方を見いだすことができる。	・自分の思いや願いを基に、学級オリジナルの草木染め作品を作ることは、自分たちが草木染めのよさを様々な人々に伝えたいという思いをもつことができる。
見・考・方	草木染めやそれに関わる人々に関する広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、草木染めに関わる課題を探究し、草木染めとの関わり方を問い続ける。		
今後の学習	4年「笑いで幸せ運び隊」において、人を笑わせて楽しませるといふ、人と関わる学習へと発展していく。		

指導と評価の計画（全 70 時間）

単元	オープン！わくわく草木染め工房 ※草木染めと竹細工について			
目標	地域の伝統文化に関わる草木染め（竹細工）について調べ、草木染め（竹細工）をし、地域の人と関わりながら、それらの特徴を発信することを通して、地域の草木染め（竹細工）の仕方や地域の草木染め（竹細工）に関わる人々の思いの生かし方について考え、草木染め（竹細工）に込められた思いや、草木染め（竹細工）の価値を多様な角度から考えることの大切さを自覚し、自己の生き方を見つめ広げていく。			
評価 規 準	(①知・技)草木染め（竹細工）の見た目、込められている思い、歴史、自分たちが作った草木染め（竹細工）の特徴を理解している。 草木染め（竹細工）やそれに関わる人々の特徴の比較・分類をする思考ツールを使ったり、自他の考えを整理したりして、関わり方に生かしている。 (②思・判・表)草木染め（竹細工）やそれに関わる人々についての課題を設定し、必要な情報を収集したり、試行錯誤したりして、関わり方を導き、実践している。 (③主体的態度)草木染め（竹細工）やそれに関わる人々への関心を高め、取組への思いや自信をもち、ものの価値を多様な角度から見直そうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は記録に残す評価
であ う	2	○学級目標や過年度の取組やくすの木タイムの手引きを基に、関わる対象を選択する視点について話し合う。	○過年度の取組から探究のよさを想像できるように、過年度のくすの木タイムでの具体的な活動とその時の成果が分かる振り返りシートや写真を提示する。	◇「おもしろそう」「地域のことを知れる」など、過年度の取組に対する思いを記述したり、発言したりしている。 ＜ノート・発言③＞
	4	○草木染めと竹細工を候補として挙げ、選択する方法を話し合ったり、それらについて情報収集したり、収集した情報を整理分析したりする。 ・家庭に草木染めと竹細工に関わる作品の有無や草木染めと竹細工に関わる話を聞く ・インターネットや本などの資料を見る	○草木染めや竹細工などの子どもたちの身近にある手作りできそうなものの中から関わりたい対象を自分なりに選択し、おもしろそうだなという思いをもてるように、実物や資料を用意し、実際に見たり、使ったり、調べたりする機会を設定する。	◇関わりたい対象を自分なりに決め、その理由として、「おもしろそう」「地域のことを知れる」などの視点で記述したり、発言したりしている。 ＜ノート・発言②＞
	6	○草木染めと竹細工の専門家から対象の特徴や抱える問題などを聞き、試しのものづくりをし、収集した情報を整理分析する。	○関わりたい対象の特徴や抱える問題、実現可能性などを明確にすることができるように、情報を整理することができるマトリクス表を用意する。	◇関わりたい対象の特徴を自分なりに記述している。 ＜ノート①②③＞
	3	○整理分析した情報を基に、関わりたい対象とその理由を話し合い、関わっていく対象を決める。 ——学習のめあて—— 草木染め工房を開いて、草木染めのよさを伝えよう	○関わる対象の竹細工・草木染めの特徴を基に、決められるように、話し合った特徴の候補の中から選択する際の視点「実現可能性」「自分たちらしさ」を提示する。	◇選択する視点に照らして、対象を決めた根拠を複数記述したり発言したりしている。 ＜ノート・発言②＞
か か わ る	1	○専門家の草木染めと試しの草木染めを比べた感想や疑問を話し合い、課題をつかむ。 ——課題—— 草木染めのよさが伝わる附属小草木染めハンカチを作るには、どうしたらよいのだろう	○専門家の草木染めとの違いを明確にすることができるように、専門家の草木染めと試しに作った草木染めを比べる機会を設定する。	◇専門家の草木染めからわかる特徴を複数記述したり発言したりしている。 ＜学習プリント・発言①＞
	1	○課題を解決した状態について話し合う。	○目指す草木染めの状態を具体的に想定できるように、評価者を設定し、評価の視点として、草木染めの特徴を整理する「見た目」「使い心地」等の視点を提示する。	◇目指す草木染めの状態をイメージしながら、「見た目」「使い心地」について記述したり発言したりしている。 ＜ノート・行動①＞
	2	○グループで計画書を作る。	○工夫の仕方の見通しをもてるように、複数の生地、専門家の草木染めを提示する。	◇作りたい草木染めをイメージしながら、計画書をかいたり、生地を選んだり、実物を触ったりしている。 ＜ノート・行動①＞
	2	○グループで草木染めハンカチを作る。（1回目）	○作り方の見通しをもてるように、各グループで決めた計画書を用意する。	◇計画書に合わせて、草木染めを作っている。 ＜学習プリント③＞
	1	○オリジナルの草木染めに合うハンカチの生地を自分なりに決める。	○草木染めをしたそれぞれの生地に対する自分の考えをまとめられるように、マトリクス表を用意する。	◇ハンカチを見て、自分なりの考えを記述している。 ＜学習プリント①＞
	1	○作った草木染めハンカチの「色の染まり方」や「使い心地」を基に、今後使用する生地について話し合う。（本時）	○草木染めのよさが伝わる生地を見付けられるように、課題を解決した状態の具体図と子どもの考えを整理するマトリクス表を用意する。	◇専門家の話や試しの草木染め等で得た情報を基に、「色の染まり方」「使い心地」「自分たちらしさ」を視点に記述したり発言したりしている。 ＜ノート・発言①②③＞

	2	○同じ植物で試したいグループで草木染めハンカチを作る。(2回目)	○作り方の見通しをもてるように、作り方の計画を提示する。	◇計画に合わせて、草木染めを作っている。 ＜学習プリント③＞
	1	○作った草木染めハンカチの「染まった色」や「色の染まり方」を基に、今後使用する植物について話し合う。	○草木染めの感想を基に、草木染めのよさが伝わる植物を見付けられるように、課題を解決した状態の具体図とグループの子どもの考えを整理するマトリクス表を用意する。	◇作った草木染めのよさや問題点を、友達や自分たちの取組を根拠に発言したり記述したりしている。 ＜学習プリント、発言②＞
	課外	○他のグループやクラスの子どもに草木染めハンカチを見たり、使ってもらったりし、感想をもらう。		
	3	○他のグループやクラスの子どもからもらった感想を基に改善策を考え、草木染めハンカチを作る。(3回目)	○今までの体験を踏まえて計画を立てられるように、1回目と2回目の結果の一覧を提示する。	◇根拠をもって草木染めの計画書を作り直している。 ＜学習プリント②＞
	課外	○専門家に草木染めハンカチを使ってもらい、感想をもらう。		
	2	○専門家に草木染めハンカチを使ってもらった感想を基に成果を話し合う。	○今までの追究の成果を実感できるように、作った草木染めと専門家からの感想を提示する。	◇これまでの追究の成果を複数記述している。 ＜学習プリント②＞
	2	○草木染めハンカチについて、今までの活動の成果を振り返り、これからしていきたいことを話し合う。	○人の役に立つものを作りたいという思いをもち、これからの活動に見通しをもてるように、課題を解決した状態の具体図を提示する。	◇草木染めハンカチを作る目的と相手について、気付きや疑問点から記述したり発言したりしている。 ＜ノート・発言③＞
	3	○専門家の話や自分たちの草木染めハンカチへの評価、草木染めの認知度調査を基に、感想や疑問を話し合い、課題をつかむ。 課題 草木染めを知らない人に草木染めのよさをもっと知ってもらうには、どうしたらよいのだろう	○草木染めの特徴を発信する目的と相手を明確にできるように、専門家から聞いたことを振り返る際に「認知度調査で意外だったこと」の視点を提示する。	◇今までの学習を基に、草木染めを知らない人に草木染めの特徴を伝えたいという思いを記述している。 ＜ノート①②③＞
	3	○草木染めハンカチの発信方法の特徴を話し合う。	○草木染めの発信方法の特徴について自分の考えをもてるように、発信方法に関する図書資料コーナーやWebサイトリストを用意する。	◇草木染めハンカチの発信方法の特徴を記述している。 ＜学習プリント①＞
	2	○課題の解決に向けて、草木染めの特徴を発信するための学習計画を立てる。	○課題の解決方法の妥当性を把握し、追究への見通しをもてるように、草木染めの特徴の発信方法を序列化するピラミッドチャートの枠を用意する。	◇根拠を明確にして、よりよい発信方法について記述したり発信したりしている。 ＜学習プリント・発言②＞
・まいとかめする	4	○草木染めの特徴を広めるための方法として、「草木染め展示会」と「草木染め体験会」などの候補を挙げ、話し合って決める。	○発信方法の特徴を整理しながら比較できるように、課題を解決した状態の具体図とマトリクス表の用意をする。	◇課題を解決した状態の具体図を基に、発信方法を発言したり、記述したりしている。 ＜学習プリント・発言②＞
	1	○資料にまとめる内容を分担して詳しく調べ、「草木染め体験会」の準備をする。	○伝えたい内容や草木染めに適した方法を決められるように、「草木染めの方法」、「草木染めの歴史」、「草木染めの製品」などの視点を提示する。	◇伝えたい内容に適した絵や図、写真などを用いて、発表資料や場を作っている。 ＜制作物①②③＞
	6	○「草木染め体験会」を行い、草木染めを知らない人(附属小学校の2年生)に草木染めの特徴や草木染めの歴史などを伝えたり、実際に染めてもらったりする。	○草木染めの様々な特徴を発信することができるように、草木染めのグループごとにブースを設置する。	◇草木染めを知らない人に草木染めの特徴を伝えたいという思いを記述している。 ＜発表・行動①②③＞
	3	○作った草木染めの作品と「草木染め体験会」の感想を集計し、成果を話し合う。	○「草木染め体験会」の成果を実感できるように、課題を解決した状態の具体図と感想を集計するシートを用意する。	◇自分たちの草木染めや草木染め体験会の成果を記述したり発言したりしている。 ＜ノート・発言①②③＞
	5	○1年間の取組の成果を基に、実社会へ貢献することと探究的に学ぶことの価値について話し合う。	○ものの価値を多面的に見つめることの大切さについての概念的な理解や自分の生き方の変化を実感できるように、試しの草木染めや、今までの追究のノートや学習プリントを見返す機会を設定する。	◇高まった生活を豊かにするものに対する概念的な理解や変化した自己の生き方への思いを記述している。 ＜ノート①②③＞

本時の学習（23／70時間目）

ねらい 専門家の話や試しの草木染め等で得た情報を基に、3－3オリジナルハンカチに合う生地について、課題を解決した状態に照らして話し合う活動を通して、草木染めハンカチの色合いや機能などの多様な角度から自分たちの草木染めに合う生地を見いだすことができる。

評価項目 専門家の話や試しの草木染め等で得た情報を基に、「色の染まり方」「使い心地」「自分たちらしさ」を視点に記述したり発言したりしている。
＜ノート・発言①②③＞

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・ぼくは、触り心地がいいから綿のガーゼがいいなと思ったけれど、友達の振り返りをみると、選んでいる生地が違ったな。 ・今日は、生地についてみんなと話し合って、決めたいな。（目的意識） めあて：3－3オリジナルハンカチに合う生地を決めよう	○自分と友達を選んだ生地が異なることに気付き、話し合う必要感をもてるように、同じグループの友達の振り返りを見直すよう促す。 ○自分たちの草木染めに合う生地をクラス全体で決めるという目的意識を高められるように、自分が選んだ生地と、本時に組みたいことを問いかける。
2 自分たちの草木染めに合う生地について話し合う。 ・ぼくは、草木染めのよさを伝えるには、色の染まり具合が大切だと思うから、絹がいいと思ったよ。でも、触り心地がよいから、綿のガーゼがいいと言っている人もいるな。 ・それぞれの生地の理由をよく聞けばいいと思うな。綿のガーゼの理由は何だろう。 ・たしかに、友達が言うように、絹よりは染まっていないけれど、綿も正田さんの見本の作品のように色がついているね。 ・「色の染まり方」や「使い心地」は、目指すゴールの中にあるね。でも、「自分たちらしさ」はまだ考えてなかったな。絹を使っても、正田さんと同じやり方だから、綿のガーゼを使うことが自分たちらしさだと思うな。 ・絹は、よく染まるし、水もよく吸収するからすごくいいけど、せっかくなら「自分たちらしさ」を大切にしていきたいな。だから、ぼくたちはあえて綿のガーゼを選んで、今よりもっとしっかり色が染まった3－3オリジナルハンカチを作りたいな。（目的を達成した意識）	○それぞれの生地によさがあることに気付けるように、自分の決めた生地とその根拠を発表するよう促す。 ○生地を決める基準を学級全体で明確にできるように、決め方と決める際に大切にしたいことを問いかける。 ○生地を決めた根拠に共通点と相違点を得られるように、根拠を色分けし、構造的に板書する。 ○多様な角度から生地を決める根拠を見いだせるように、根拠と課題を解決した状態の具体図とを照らし合わせ、草木染めのよさに着目して考えるよう促す。 ○自分たちの草木染めに合う生地をクラス全体で決められるように、課題を解決した状態の具体図の中にある視点「色の染まり方」と「使い心地」と「自分たちらしさ」で、大切にしたいことを問いかける。
3 本時の学習の振り返りをする。 ・今回は、自分たちの草木染めに合う生地を見付けられたな。次回の草木染めは色々な植物を試しながら、今回よりも絞り方を工夫していきたいな。	○本時の学習の成果を実感できるように、振り返りシートに記述し、同じグループの友達と見合うよう促す。 ○今後の追究への意欲を高められるように、次時に行うことを決められたことを称賛する。